

会話文中の文末表現や 一人称によって キャラクターに割り当てられる ジェンダー

—小学校国語教科書の物語文から見る児童が抱くジェンダー・イメージ—

物語教材の会話文には性差がある

書き言葉の会話文には文末表現や一人称に男女差がある。

例) 男性キャラクターには一人称は「ぼく」、文末表現に「ぞ」が使われやすいが、女性キャラクターには使われにくい

男性的な文末表現・一人称の例

「だ」「ぜ」「だろ」「だい」「かい」「よな」「おれ」「ぼく」

女性的な文末表現・一人称の例

「わ」「わよ」「なの」「ね」「よ」「かしら」「でしょ」「あたし」

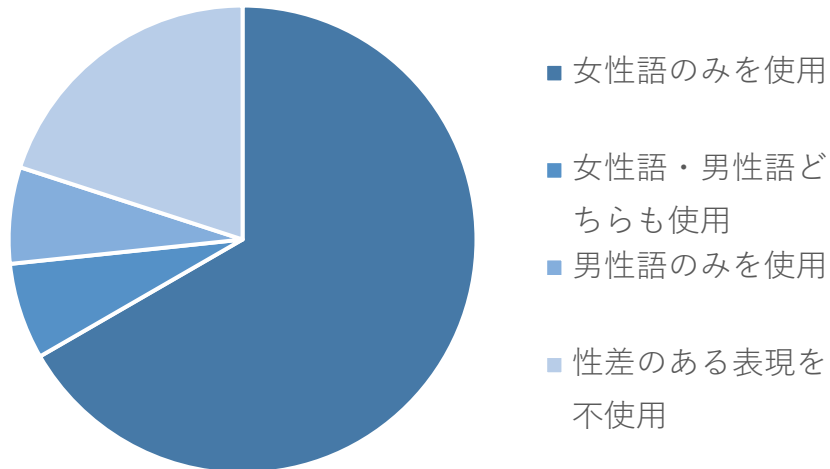
参考：『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』金水敏（2003 岩波書店）
『「女ことば」はつくられる』中村桃子（2007 ひつじ書房）

物語教材の会話文には性差がある

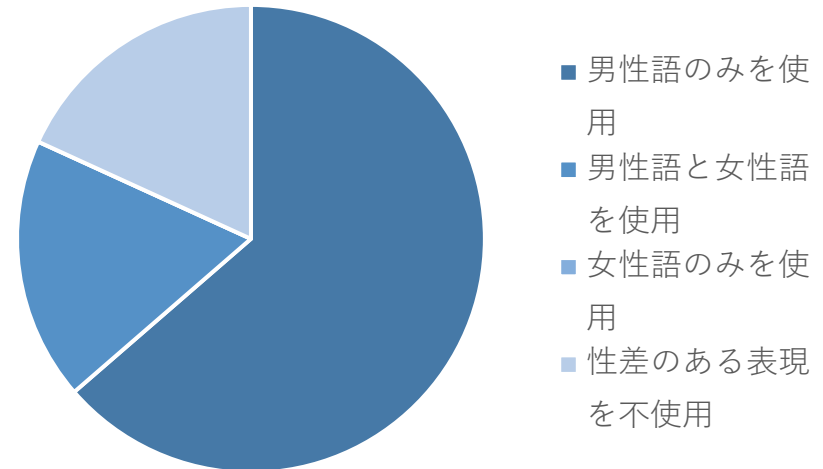
絵本や国語教科書の物語教材に含まれる会話文の文末表現と一人称は、発話するキャラクターの性別によって使い分けられている。

【事前調査：物語教材に登場するキャラクターの性別と使用する文末表現や一人称の傾向】

女性キャラクター



男性キャラクター



物語教材の会話文には性差がある

現実の会話では、男女で使う文末表現が大きく異なるということはない。

“私たちが実際に言葉を使うときには、女性でも男性でも、時と場合に応じてさまざまな言葉を使い分けています。”（中村桃子『女ことばと日本語』）

“若い世代では、女性文末詞がほぼ消滅しつつある”（水本光美「“ドラマ語”としての「女ことば」」）

→メディアの影響が比較的少ない小学生は、物語教材の会話文に含まれる、男女で変化する文末表現や一人称をどう捉えているのだろうか。

男女で変わる会話文中の文末表現と一人称は、小学生にとって、キャラクターの性別を判断する材料になっているのか。

目的

小学1年生は書き言葉の会話文に含まれる文末表現と一人称から発話したキャラクターの性別を判断しているのかを明らかにする。

対象

奈良女子大学附属小学校1年生67人（月組33人、星組34人）

内容

月組、星組の2クラスに映像は全く同じだがキャラクターの話す台詞が違うアニメーションを見せ、視聴後に2人のキャラクターのどちらが兄でどちらが妹だと思ったかを尋ねた。

実際に使用した台詞例

月組

兄「おやつにドーナツがあるって言ってたぞ」

妹「もちろん。当たり前でしょう。」

星組

兄「おやつにドーナツがあるって言ってたよ」

妹「もちろん。当たり前じゃん。」



目的

小学4年生と高校2年生を比較しながら、児童・生徒が書き言葉の会話文に含まれる文末表現と一人称から発話したキャラクターの性別を判断しているのかを明らかにする。

対象

奈良女子大学附属小学校4年生69人、相楽東部広域連合立和東小学校4年生24人、奈良女子大学附属中等教育学校5年生93人

内容

「きつつきの商売」という物語教材からキャラクターの会話を一部抜粋し、発話しているキャラクターの性別は何だと思ったか、理由とともに質問紙で調査を行った。

各キャラクターの台詞例

野うさぎ：「どんな音があるのかしら」

野ねずみ：「ぼくたちは、うんがいいぞ。」

きつつき：「おとやの新しいメニューができたんですよ。」



実際の質問例

【しつ問1】このお話に出てきた『野うさぎ』は男の子だと思いますか。女の子だと思いますか。あてはまるものに丸をつけて下さい。

男の子・女の子・わからない

【しつ問2】どうしてそう思いましたか。あてはまるものすべてに丸をつけて下さい。他の理由があれば、『その他』のところに自由に書いてください。

- ・しゃべり方がたのもしいから
- ・しゃべり方がやさしいから
- ・見た目がかわいいから
- ・見た目がカッコいいから
- ・じゅぎょうで習ったとき、男の人の声で聞いたから
- ・じゅぎょうで習ったとき、女の人の声で聞いたから

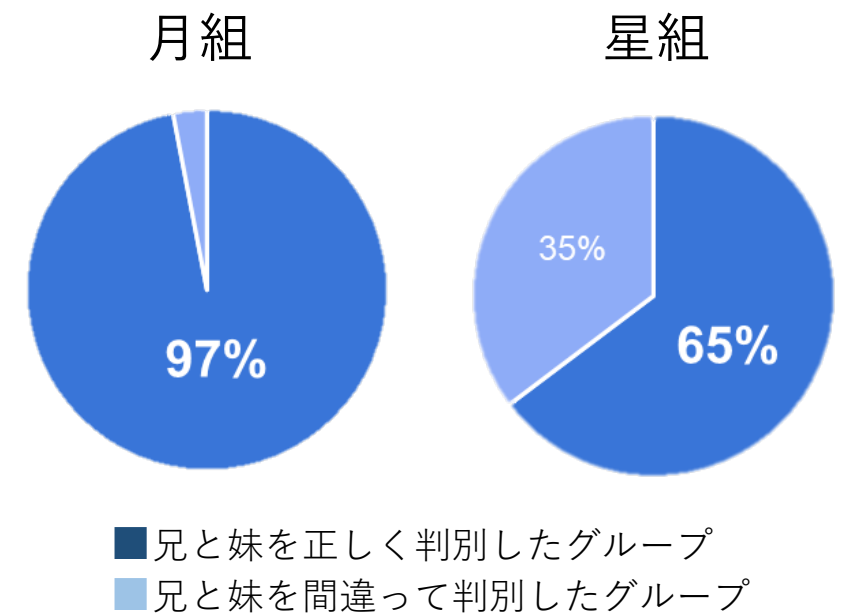


文末表現と一人称が性別の判断に与える影響

アンケート①の特徴

- ・イラスト、声は両クラス共通である
- ・月組の映像は「言ってたぞ」「当たり前でしょう」のように、台詞に男女差がある
- ・星組の映像は「言ってたよ」「当たり前じゃん」のように台詞の男女差がない

兄妹で台詞の男女差が少ない星組に比べ、台詞に大きく男女差がある月組の方が、児童の意見が明らかに偏っている。



児童は小学1年生の頃から

文末表現と一人称をもとにキャラクターの性別を判断している。

文末表現と一人称が性別の判断に与える影響

理由解答欄「その他」に寄せられた自由コメント

- ・「かしら」や「するわ」など女性らしい語尾だから（31票）（「野うさぎ」）
- ・「いうぞ」とかは男っぽい（22票）（「野ねずみ」）
- ・「ぼく」は男の子（29票）（「野ねずみ」）

実際の日常生活では男女の言葉遣いに違いが少ないという先行研究に矛盾
また、今回調査対象の児童・生徒は全員近畿地方在住で、方言の方がなじみ深い

教科書・絵本・アニメなどのメディアに登場するキャラクターの台詞には男女の言葉遣いに違いがあるため、それらのメディアから「女性らしい／男性らしい言葉」を獲得している可能性が高い。

多くの児童は

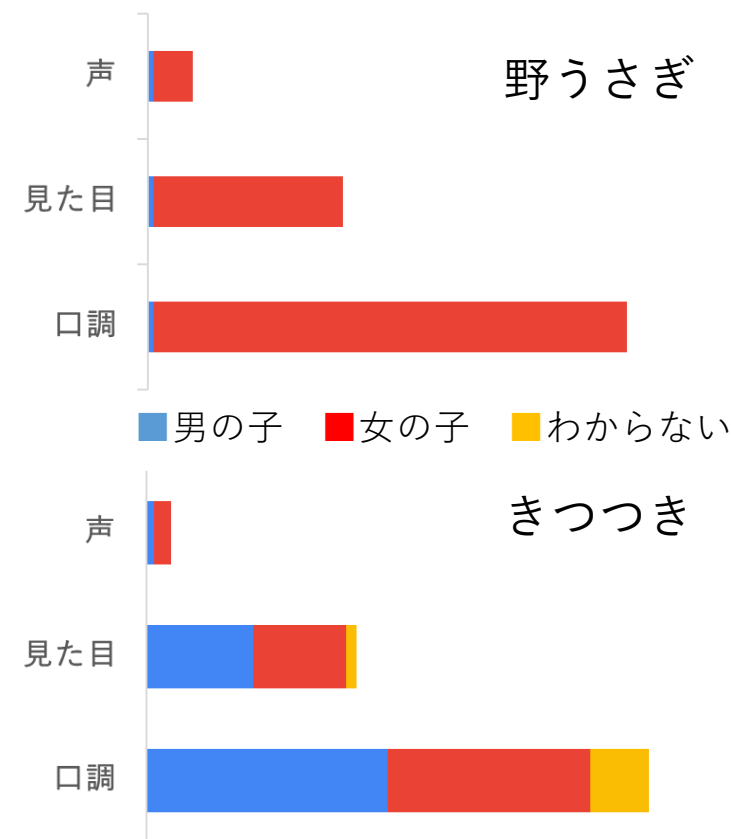
特定の文末表現や一人称が男女で変化するものであると捉えている。

文末表現と一人称が性別の判断に与える影響

「野うさぎ」「野ねずみ」「きつつき」のそれぞれで、**台詞の文末表現や一人称をもとに性別を判断した意見が最も多い。**

また、敬語のみを使用している「きつつき」は、全てのキャラクターの中で、性別を「わからない」とする票が最も多かった。

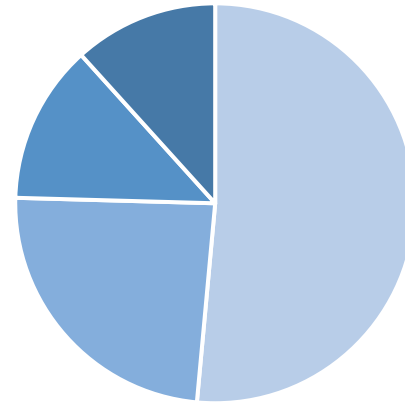
会話文中の文末表現と一人称は、児童にとってキャラクターの性別を判断する最も重要な要素となっている。



文末表現と一人称がキャラクターのイメージに与える影響

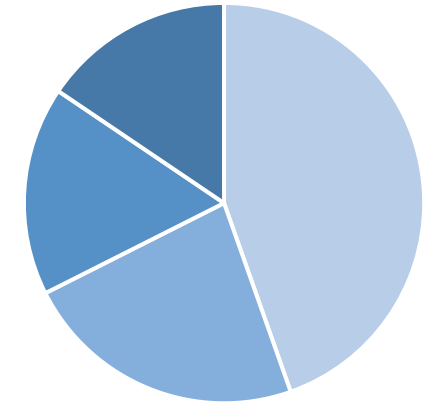
キャラクターを「女の子」と判断した理由

| きつつき | 男の子 | 女の子 |
|-------------|-----|-----|
| しゃべり方がやさしい | 5 | 20 |
| しゃべり方がたのもしい | 23 | 2 |



- しゃべり方がやさしい
- しゃべり方が女性らしい
- 見た目がかわいい
- その他

キャラクターを「男の子」と判断した理由



- しゃべり方がたのもしい
- しゃべり方が男らしい
- 見た目がカッコいい
- その他

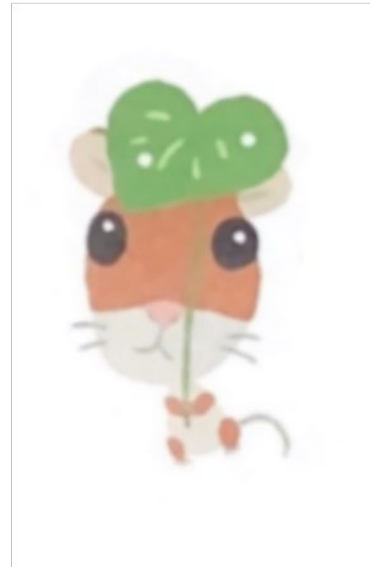
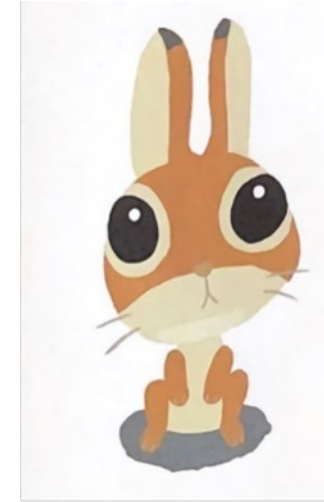
児童にとって、「やさしい」と「女の子らしい」
「たのもしい」と「男の子らしい」は関係がある。

文末表現と一人称がキャラクターのイメージに与える影響

キャラクターは全てかわいらしい絵柄である

- ・性別が「わからない」時の理由に「見た目がカッコいい」を選択した児童はいない
- ・「見た目がかわいい」の方が「見た目がカッコいい」よりも回答の総数が圧倒的に多い

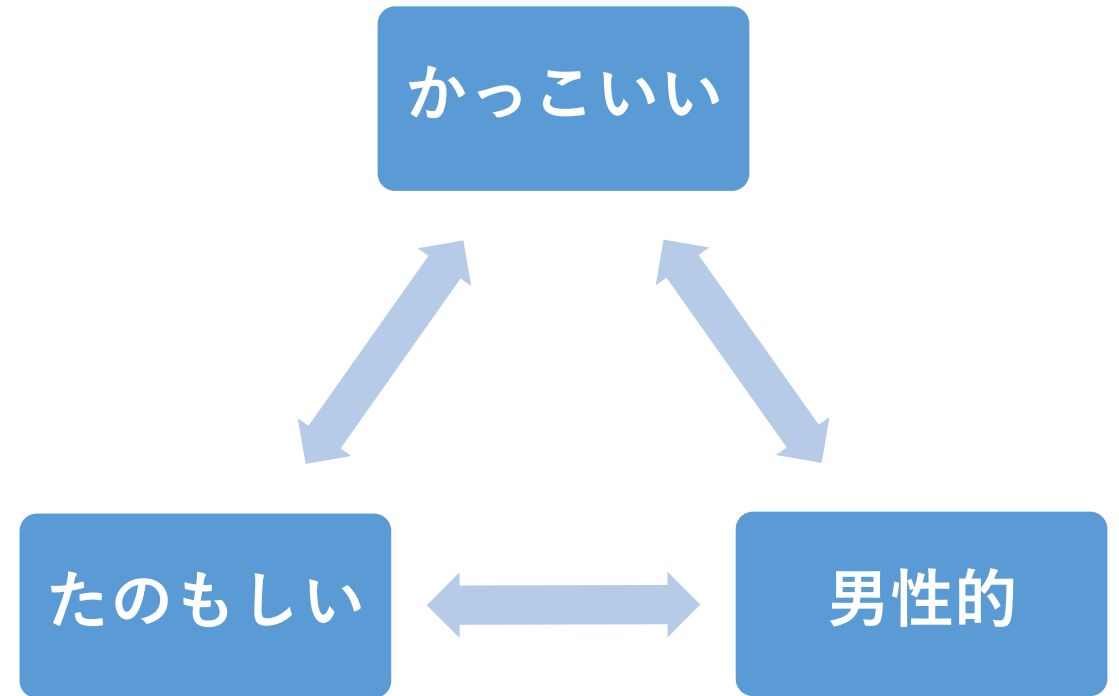
なぜキャラクターを「男の子」だと認識すると、「カッコいい」と感じるのか？



「かっこいい」と「たのもしい」の相互作用

「男の子」と判断した理由では、「見た目がかっこいい」と「しゃべり方がたのもしい」を同時に理由としているケースが多かった。

→ 「かっこいい」「たのもしい」「男性的」は互いに作用している可能性がある。



性別によって使い分けられる文末表現と一人称はキャラクターの外見の印象にまで影響を与える。

文末表現と一人称がキャラクターのイメージに与える影響

高校2年生にのみ見られた特徴

キャラクターの立場や種族を理由にした性別の判断

例：野うさぎという動物に女性のイメージがある
『おとや』のような店の店主は女性が多い など

「なんとなく」キャラクターを異性だと判断する

「きつつき」を男女どちらかだと判断している時、高校2年生のみ理由に「なんとなく」という意見が複数あった。回答者の性別と照らし合わせてみると、「なんとなく」という理由で性別を判断していた生徒は、ほぼすべて「きつつき」を自分の異性だと判断していた。

**年齢が上がると、一人称や文末表現よりも
読者自身の経験や知識に基づいた個人的なイメージから
キャラクターの性別を判断しやすくなる。**

おわりに

物語教材の会話文にある性差を児童はどう受け止めているのか

児童は物語教材の会話文に含まれる文末表現と一人称から、キャラクターの性別を判断している。加えて、児童は「男性は頼もしくてかっこいい」「女性は優しくてかわいい」など、性別に対するイメージを抱いており、同時に「男性／女性が使う文末表現と一人称」があるという知識も習得している。

このイメージ・知識は児童の中で互いに影響し、**性別によって使い分けられる文末表現や一人称はキャラクターの外見の印象も左右する。**

例：キャラクターの台詞を「頼もしい喋り方」だと感じれば、外見を「かっこいい」と評価する

**子供たちは特定の文末表現や一人称から様々な印象を受け取り、
キャラクターに対するイメージを形成している。**